

村井 トミ

雑記帳——と聞いただけでも何だか雑然とした感を受けるに違いない。しかし私は雑記帳を愛用している。

毎日を共に過す子供達について何でも気の付いた事をメモしておく帳面が私の雑記帳である。幼稚園の生活でその子供について感じた事、母親から聞いた話でも何でも記しておきたいと思う事を、その子供の頁にメモしておくのである。

日頃の保育で、こうしたいと思うこと、こうなければと願う事は色々ある。あり過ぎる位ある中の一つがこの雑記帳である。そしてこの雑記帳が一回でも多く手にすることが、私の願である。

四十人の受持の子供は四十種の内容格を持つてゐる。その子供達をいかによく観察し、その子供なりの指導がされなければならぬかという事はいつも考えさせられることである。或人はこう言うかもしれない。何もいちいちメモしなくとも毎日の指導でわかるではないか、又わからない様な先生では駄目だ——。確かにそうかも知れない。しかし突然ペンを持った時案外日頃の観察のうつろさに自分乍らあきれることがある。これは私だけなのかも知れない。良いにつけ悪いにつけ、特種な子供ははつきり頭に浮ぶが、その他の多くの子供は曖昧なのである。毎日と一緒に過していればその子供につ

いて感ずる印象は大体は合っている様である。しかし色々な面から考えてみる時、今更はつきりと両眼を開いて（心眼をと言つた方が適当な位）見直したくなる。

幼稚園の先生は一人で三役を持つてゐる。先生であり、事務員であり、小使であるので時間がとても足りない。時間が足りないからと言つて部屋の掃除を適当にしておこうと思つても、明日又あの子供達が床の上に座り込んで積木に余念のない姿を想うとこれもいい加減には済まされなくなる。だから時間を有効に使つて余程心掛けないと出来ない。特に私の様な意志の弱い者には一苦心がいる。

—— ——— ———

記録には色々な方法があると思う。能率的で賢明な方法を幾つかいくつかの協議会で伺つた事もある。時間を定めて一人の子供を追かけて何回かのデーターを出すものや、場所を区切つてするもの、環

境を限定して整えておくもの等、他にも色々あつたと思う。しかし四十人の子供を一人で持ち乍ら出来るよい方法はなかなかない。折角いい方法だと思つても長続きしないものもある。短時間にして試み様とした事もあつたが他の子供達が気がかりで落着いて観察出来ない。結局今の様な雑記帳になつてしまつた。私の学校の様に児童科や保育科のある所では、まとまつた調査はそちらにお願いする事も出来るが、一番子供に關係深い自分が熟知する事が大切だと思ふ。最初は性格の欄、社会性の欄、智能の欄、健康、家庭より、等の欄に分けてしてみたが埋まる欄はほとんど埋まり頁数ばかり増してまともが悪いので、種類にかまわず、一人一人の子供の頁を設けて、何でも箇条書に書く事にした。そして学期の末とか一年の末にまとめて分類することにした。さて、その日に考えたり思つた

りした事をその子供の頁に書くのであるが、頁がどんどん埋まって行く子供もあるし、一向に埋まらない子供もある。一向に埋まらない子供を、一日よく気をつけて観る様にしている。

又、言語なら言語をテーマにきめて、その日は特にその事について全体をよく観察し、言語について書き込む必要のある子供の頁に書き込んでいく。又、言語というテーマをきめても、それを更に小さくする事が長続きの出来る秘訣ではないかと思う。或日は幼児語について、或日は人の前での発表はどうか、人の話を聞く事はどうか。一つの団体遊びをしても理解力はどうかという様に小さい一つを取り上げて全体を観て、書く必要のある子供についてだけ書く。そうでないと重荷になって結局つづかない。

主として一日の保育を終ってつけるのであるが、保育室の片隅の

机上に小さい伝票を置き、一寸の暇に走り書きしておく事もある。

しかし書くだけでは何にもならない。これを活用しなくてはならない。それも大勢は一度に出来ないの、一日の保育の中にその子供についての指導を一段と頭においてする様にしている。そしてそこに出てきた問題の原因を考えてみる。先日も面白く思ったことであったが――。いつでもお掃りの支度のおそい子供がいる。皆がオーバーを着終る頃、やつと支度を始める位。どうしてかと思つて特にその日はその子供の行動を注意してみると、人のおせつかいが原因している事がわかつておかしくなつたりする。マフラーが見えない。帽子がない、等という友達がいると一生懸命探してばかりいる。皆が出来上る頃、やつと自分が始めるというわけである。今迄はいつも一番びりなので、動作が遅いとばかり思つて早く身仕度を

させる事に気を配っていたが、適切な指導でなかつたわけである。

これは一例であるが、よく氣を付けて見ないとこんな不適當な指導が案外多くころがつているのではないかと思つて恐ろしくなる。

この雑記帳も二年なり三年なり在園中続けられると、入園當時からの変化がよく見えて面白いし、個人的にも又、全体的にも、年令的に見てもよい勉強になり、何かつかむ事が出来るのではないかと思う。前から心掛けていても忙しくて逐々ブランクの時期が出来て三年間のまとめが出来なかつたのが残念だが意志を強固にして、これからまとめたかと思つている。

――

家庭では吾が子の雑記帳がある。つい先頃誕生を迎えたが一年の雑記を折々抜けてみると育つた一年の変化が面白い。赤坊なので更に面白いのかも知れない。

夢中で育てて来たこの一年、自

分の子供の心身の發育は大体はわかつていふつもりでもこの雑記がなかつたら大変である。こんな頃こんな様だつたとその頃を思い出したり、今更の様にこんな頃にこんな事をしたのだつたと驚ろいたりする。とにかく一年の間でさこの雑記帳を懐しく又ありがたいと思つて眺める。

しかし私の様に職業を持つてゐる者は殆ど一日中子供の面影がみられないので、家人の協力がなければ出来ない事である。毎夜留守中の事、一挙一動を話してもらふ事を楽しみにしている。このメモも時には電車の中で走り書きすることすらあるが、成人するまでこの雑記が続けられるかどうか？

必ず続けたいと思つてゐる。

そうして今迄は三才なり四才なりとして、幼稚園で受けとつていた子供達に対する理解と希望を、自分の子供の経験を通して更に深めていきたいと願つてゐる。